

施策評価シート

施策番号【2-2】

評価年度	令和5年度	事業実施年度	令和4年度	施策主管次長名	岡田 珠見	
施策番号	2-2	施策名	生涯にわたって健康に暮らせるようにしよう		総合計画掲載頁	90~97
主担当部名	福祉部					
関連課名	長寿介護課、保険健康課、学校教育課、スポーツ課					

1 総合計画の目標指標 PLAN & GOAL (中間値と最終目標値の確認)

取組分野	地域医療	R5 中間値	R10 目標値
指標名	特定健康診査受診率 後期高齢者健康診査受診率		
指標の定義	40歳から74歳までの国民健康保険被保険者を対象とした特定健康診査を受信した者の割合 75歳からの後期高齢者医療保険被保険者を対象とした健康診査を受信した者の割合	60% 40%	65% 45%
取組分野	健康づくり	R5 中間値	R10 目標値
指標名	健康づくりに関する取り組みの市民満足度割合		
指標の定義	「健康づくり」の取り組みに対する満足度割合(アンケート)	75%	80%
取組分野	スポーツ	R5 中間値	R10 目標値
指標名	成人のスポーツ実施者の割合		
指標の定義	週1回以上スポーツをする人の割合	56%	65%
取組分野	生きがい・働きがい	R5 中間値	R10 目標値
指標名	生きがい・働きがいに関する取り組みの市民満足度割合		
指標の定義	「生きがい・働きがい」の取り組みに対する満足度割合(アンケート)	79%	82%
取組分野		R5 中間値	R10 目標値
指標名			
指標の定義			

2 成果指標 DO & REPLAN (実績を計上し計画値を再設定)

指標	取組分野	地域医療	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5目標
①	成果指標名	健康診査受診率分析者数	人	8,310	8,238	8,409	8,784	8,800
	対象	健康診査受診対象者	把握方法	過去3年間の健康診査受診率を分析し、受診勧奨対象者を抽出することで、対象者に対し効果的な受診勧奨を実施する。 1年間に健康診査受診率データを分析した数				

指標	取組分野	健康づくり	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5目標
②	成果指標名	健康マイレージ事業参加者数	人	88	101	116	148	200
	対象	市民	把握方法	市民が自主的に健康づくりに取り組むための動機づけとするため、健康マイレージ事業を実施する。 1年間の健康マイレージチャレンジシート達成者数				

指標	取組分野	スポーツ	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5目標
③	成果指標名	スポーツ施設の年間利用者数	人	350,338	246,121	291,836	324,568	397,000
	対象	利用者	把握方法	市民が気軽にスポーツに親しむ機会を提供するため、スポーツ施設・設備の整備を進める。 1年間の利用状況を施設別に把握				

指標	取組分野	生きがい・働きがい	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5目標
④	成果指標名	シルバー人材センターが年間契約している事業所契約件数	件	47	45	36	36	40
	対象	事業所等	把握方法	働く意欲のある高齢者に就労の場を提供するシルバー人材センターへの支援を行う。 年度末現在の年間契約している事業所契約件数をシルバー人材センターに確認				

指標	取組分野		単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5目標
⑤	成果指標名							
	対象		把握方法					

3 施策の評価

ANALYSE & CHECK(分析・評価)

施策の分析 (現状の確認と近隣調査)		
施策の現状	<ul style="list-style-type: none"> 特定健康診査受診率、後期高齢者健康診査受診率は低く、生活習慣病重症化予防事業や受診勧奨等の各種保健事業を展開することにより市民の健康保持と医療費の適正化に努めている。 市民のスポーツ実施率は国の「第2期スポーツ基本計画」で示された実施率と比較して大きく下回っている。 シルバー人材センターの会員数を伸ばすために、これまで、事業所訪問を行うことで高齢者の希望に応じた幅広い職種の開拓を行っていたが、令和2年度からコロナ禍により、事業訪問を中止している。 	
成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	健康寿命の延伸を図るため、日ごろから健康づくりに努め、進んで健(検)診を受診し、病気予防・療養・治療に専念する。スポーツの多様な効果を認識し、スポーツを生活の一部とすることで人生を豊かにし、生活の質の向上と健康でゆとりのある生活を送るようにする。多くの高齢者が積極的に参加できる多様な地域活動を立ち上げ、地域で生きがいや働きがいをもって、健康に暮らせる環境づくりに努める。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> 健康増進の機会、早期発見のため健(検)診の普及を図り、健(検)診費を負担する。 年代に応じたスポーツライフを充実させるためスポーツ機会の提供と施設の整備に努め、イベントや教室を開催し、スポーツ活動の切っ掛けづくりを行う。 高齢者の希望に応じた幅広い職種を開拓するなど、シルバー人材センターの事業の充実を図る。
近隣市町との比較	<ul style="list-style-type: none"> 特定健康診査法定報告によると、令和3年度受診率は37.1%で県内43位、近隣市町との比較で安城市が45.5%と高く、同一医療圏の豊田市は38.3%となっている。 成人の週1回以上のスポーツ実施率：みよし市R3(50.4%)、全国R3(56.4%)、名古屋市R3(55.0%)、刈谷市R2(50.3%)、豊田市R2(55.7%) 	

施策の評価 (活動の振り返りと課題の明確化)	
令和3年度以前の活動	<ul style="list-style-type: none"> 集団健診の実施や健診期間の延長や「健康マイレージ事業」を実施。 特定健康診査の受診勧奨(対象者を受診履歴から分析し受診動向のタイプ別に仕分けする方法)の実施。 令和3年度の生涯スポーツ事業はほぼ全て中止、学校体育施設スポーツ開放やスポーツ協会加盟競技団体等各スポーツ関連団体への支援、総合型地域スポーツクラブに対しては継続的な支援を実施。 年度当初の、市工業経済会役員会にて、シルバー人材センターの活動内容の説明及び仕事(発注)依頼を行い、募集チラシを作成し、地域事業所へポスティングによる案内を行う。
令和4年度の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 特定健康診査の受診勧奨(対象者を受診履歴やレセプトデータから分析し受診動向のタイプ別に仕分けする方法)を実施 後期高齢者医療被保険者の健康維持のための支援事業として、フレイル対策としての保健指導や教育・相談などを行う「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施推進事業」を実施した。 シルバー人材センターについては、コロナ禍により事業所訪問を行うことでの就業機会の確保に努めることができなかったため、新たに会員を増やす施策として、女性委員会による「認知症予防コグニサイズ講座」、「保田ヶ池ウォークラリー」、「クリスマスリース作り」などを新たに実施した。 高齢者の社会参加を促すことを目的とし、高齢者個人の特性や希望にあった活動をコーディネートする、就労的支援コーディネーターをくらしはたらく相談センターに配置し、高齢者の就労支援を行った。 令和4年度は友好都市スポーツ交流事業の野球・サッカーの派遣は中止したが、それ以外の生涯スポーツ事業は全て実施した。また、多くの市民がスポーツに親しみスポーツを行う切っ掛けを作るためこれまでの内容を大きく変更してスポーツ祭やマラソン駅伝大会を実施した。
積み残し課題等	<ul style="list-style-type: none"> 後期高齢者健康診査について、対象者を受診履歴から分析し、受診動向のタイプ別に仕分けする方法による受診勧奨方法実施の検討を行う。 利用率を向上させるためのスポーツ施設の環境改善、地域住民にスポーツの機会を提供する総合型地域スポーツクラブの更なる展開、小中学校の部活動地域移行に伴う体制整備が課題である。 高齢者人口は増加しているが、定年後も引き続き働き続ける人も多く、シルバー人材センター会員数の伸びが少ない。

4 活動計画

ACTION & PLAN(目標を達成するために起こす行動)

令和5年度以降の施策目標達成に向けての取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 健康マイレージ事業の周知方法として、無関心層に向けた普及啓発の働きかけを積極的に進める。 令和4年度から開始した高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施推進事業の拡大を図る。 スポーツ実施率を向上させるため、魅力的なスポーツイベントを開催して参加者を増やすとともに、スポーツ施設の改修を行いスポーツをしやすい環境を整え、障がい者、高齢者、子どもまで誰もがスポーツを楽しめるようにする。 くらしはたらく相談センターの設置する就労的支援コーディネーターと連携し、新規会員の発掘を行う。
施策目標達成に向けての令和5年度の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォン等の専用アプリを活用した「健康マイレージアプリ」の幅広い世代への利用拡大の推進を図る。 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施推進事業として、いいじゃん元気教室の拡充及びオーラルフレイル講座の実施 糖尿病などの重症化のおそれのある対象者に対する保健指導の実施 障がい者のスポーツ推進としてポッチャを整備しスポーツイベントでの参加を促し、高齢者のスポーツ支援としてグラウンド・ゴルフ、ゲートボールの団体をスポーツ協会が新たな支援を行う。また、子どもたちがもっとスポーツを楽しめるようスポーツイベントとレクリエーションスポーツの充実を図り、あらゆる世代に対する生涯スポーツを通じた健康づくりの機会の提供を図る。 シルバー人材センターと就労的支援コーディネーターが連絡調整を行う会議を開催